

阿寒湖畔での自然環境教育共同プロジェクト

北海道教育大学附属釧路小学校 校長 内山 隆
担当 登藤 珠実

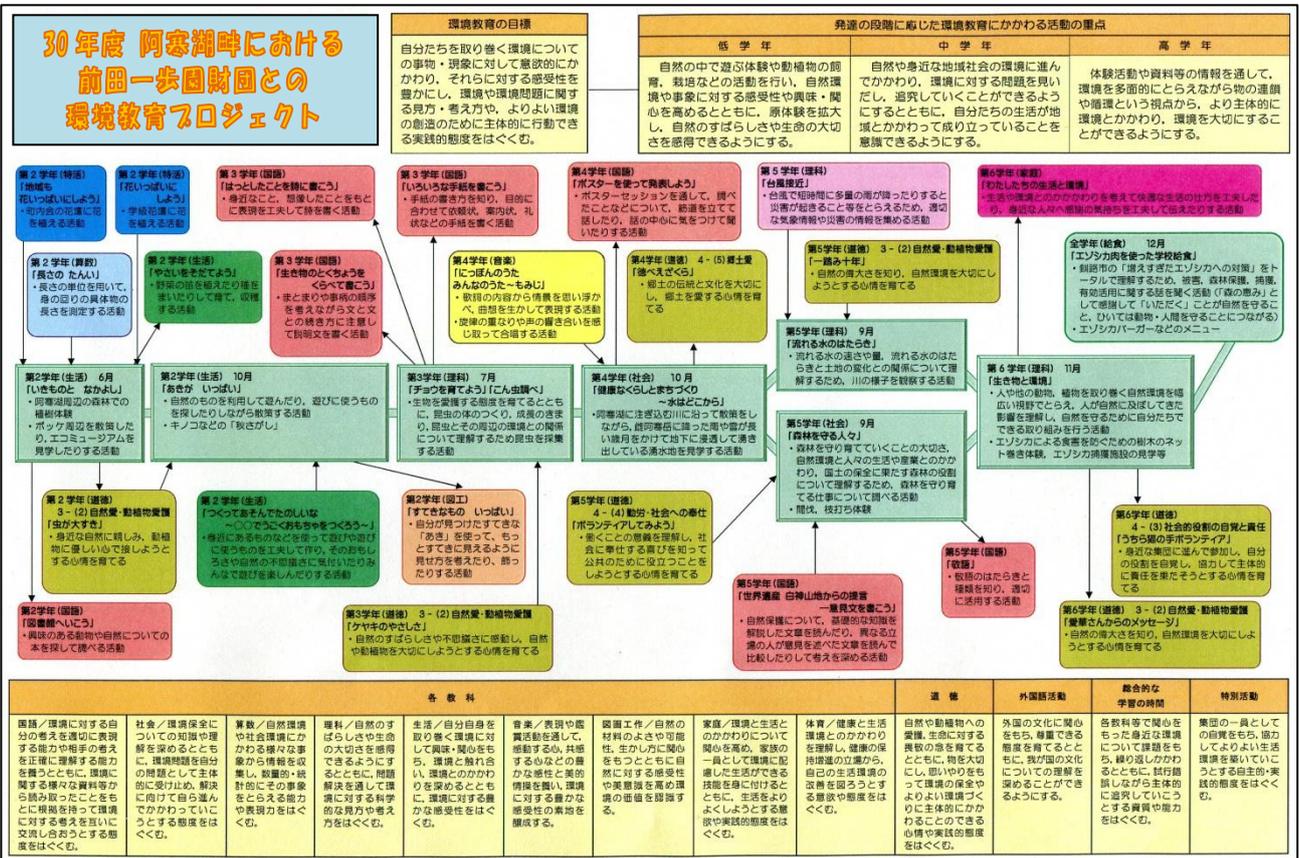
1 地域の環境・素材に直接触れ、関わる体験活動を重視した環境教育

小学校段階においては、体験活動が学びの土台・出発点となり、問題解決を促進し、知の総合化を確かなものにしていくことが多い。環境教育においても、児童の身近な問題から体験を通して学習していくことは、環境問題を自分事として捉え、できることから環境保全に取り組んでいこうとする意欲や態度を育てるために有効である。また、社会の変化に伴う児童の自然体験等の減少の状況を鑑み、本校では、児童の多様な体験活動を充実させることを重視している。

2 児童の活動を中心にした教科横断的な環境教育プログラムの開発

環境に関する問題は広範囲で多面的な問題であり、各教科等を通じた横断的・総合的な取組を必要とする課題であることから、総合的な学習の時間、各教科、道徳、特別活動等の特性に応じ、関連を図りながら学習を進めている。

また、前年度の成果と課題を踏まえ、毎年各学年のプログラムの見直しを行っている。下に示すのは、H30年度全体計画と、総合的な学習の時間及び生活科における環境教育単元である。



学年	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
単元	『春がいっぱい、いきものなつかよし』『秋がいっぱい』	『こんなにすてき! 附小のまわりの生き物たち』(20時間)	『守ろう、豊かな釧路の水源』(23時間)	『阿寒湖畔の森林守り隊』(20時間)	『地球のたからを明日へとどよう』(20時間)
目標	<p>(春)阿寒湖畔の自然を散策したり、自然観察したり、植物をもち、阿寒の自然に親しむこと。これからの5年間活動していく阿寒湖畔の森との出会いを楽しみ、今後の活動への期待感を高める。</p> <p>(秋)「あきのピンゴゲーム」の「あきの森」の活動を通して、附小の森と阿寒湖畔の森の秋の共通点や相違点に気づき、「秋」へのイメージや実感を広げる。</p>	<p>昆虫や昆虫のすみかを観察する活動を通して、昆虫の生態や生き物の環境の違いや、昆虫が自然環境の関わりについての理解を深め、身近な自然を大切にしようとする心情や態度を養う。</p>	<p>自分たちが使う水道水や水通について調べた活動を通して、情報同士を比較し、順序付けたり抽象化したりしながら自分たちの生活と水道水の密接な関係や水資源と農林について理解を深め、地域社会の環境保全に参画して関わっていくこととする態度を養う。</p>	<p>阿寒湖畔の森林に触れ、森林を守るために自分たちができることを考えながら活動を通して、森林の役割や森林を守るための工夫や努力について理解を深め、森林を守る取組等の情報を整理・分析しながら、自分の意見を再構築していく。身近な森林を保全していく活動に参画して関わっていくこととする態度を養う。</p>	<p>動物や植物の生活について、資料を活用して推測しながら調べ、情報同士を比較し、理由付けたり構造化したりしながら、生物が食糧、空気、水を通して周囲の環境と関わり合っていることについて理解し、自然環境の保全に参画して関わっていくこととする態度を養う。</p>
写真	阿寒自然環境学習の入り口	身近な自然	地域社会の環境保全	森林保全	自然環境の保全

←昨年度、総合的な学習の時間の単元開発を進め、今年度より総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムのもと環境教育を実施した。次年度は今年度の成果と課題をもとに、全体計画の見直し等を進めていく予定である。

3 各学年のプログラムの実際 (●印：(一財)前田一步園財団の所有地を活用しての活動/■印：学校での活動)

<p style="text-align: center;">【第1学年】</p>  <p>■附小の森（敷地内にある林）をフィールドとした四季を通じての自然体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 原体験の拡大 ● 自然のすばらしさや生命の大切さの感得 	<p style="text-align: center;">【第4学年】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 川の水の始まりを探す活動（下流から上流へ） ● 湧水の観察 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境に対する問題を見だし追究する態度 ● 自分たちの生活とのかかわりを意識
<p style="text-align: center;">【第2学年】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 自然散策（春） ・クロエゾマツの植樹など ● 自然散策（秋） ・キノコ探しなど <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境や事象に対する感受性や興味・関心の向上 	<p style="text-align: center;">【第5学年】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 川の観察 ・上流と下流の比較 ・流れの速さを体感 ● 人工林と自然林の比較 ● 2年生時に植樹した木の生長観察 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全に対する意識の向上 ● 自然に対する畏敬の念
<p style="text-align: center;">【第3学年】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 昆虫採集・観察 ● 水辺での遊び <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な生物の存在を実感 ● 環境に進んでかかわろうとする態度 	<p style="text-align: center;">【第6学年】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● エゾシカを視点とした生態系の理解 ● エゾシカ被害にあった樹木の観察 ● 樹脂ネットの巻き直し体験 ■ 給食での「エゾシカ肉」の試食 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境を多面的に捉える ● 物の連鎖や循環という視点から、より主体的に環境とかわろうとする態度

4 成果と課題

- 毎年継続して、同じ環境（フィールド）に関わることで、各学年の学習内容の側面から、自然の素晴らしさや抱えている問題に触れることができ、そのことによって、多面的・多角的な見方で環境・環境問題を捉え直すことができるようになっていく。
- 総合的な学習の時間を軸としたことで、探究的な見方・考え方を働かせながら、主体的に課題を見だし追究していく姿や、自己の生き方に結び付けながら環境保全について思考する姿がより顕著に見られるようになった。